

## 第 2 4 回 下野市行政改革推進委員会会議録

日 時 平成 2 1 年 1 2 月 1 7 日 ( 木 ) 午後 1 時 3 0 分 ~ 3 時 3 5 分  
場 所 国分寺公民館 第 2 ・ 第 3 研修室  
出席委員 杉原弘修会長、金子伸禄委員、小林経夫委員、尾花重吉委員、小山中井委員、伊澤和子委員、高山幸子委員、青木ムツミ委員、岡本英樹委員、前原保彦委員  
欠席委員 なし  
出席者 広瀬市長、篠崎第一分野副市長、小口第二分野副市長、古口教育長、川端総合政策室長、川俣総務部長、大門市民生活部長、田中健康福祉部長、鶴見上下水道部長、篠崎教育次長  
事務局 落合総合政策副室長、小口主幹兼室長補佐、古口副主幹、坂本主事  
傍聴者 1 名

### 次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議事
- 4 報告書の提出
- 5 その他
- 6 閉会

### 会長あいさつ

( 杉原会長 ) さっそく審議に入っていきたい。本日もよろしく願います。

### 議事

#### 会議録署名委員の指名

( 杉原会長 ) 今回の会議録署名委員は、高山委員と青木委員に願います。

#### 1 ) 会議録 ( 第 19 ・ 20 ・ 21 ・ 22 ・ 23 回 ) の確認について

( 杉原会長 ) 会議録について、この場でご指摘いただきたい。

( 金子委員 ) 第 20 回会議録の 10 ページ、「せっかくの市の資産」を「貴重な市の資産」に修正をお願いしたい。第 21 回会議録の 7 ページ、田中部長の発言の後に「潜在利用者を含めて少ないのであれば縮小すべきである。」あるいは「このままでは困る。」といった発言を追加していただ

きたい。第 22 回会議録の 7 ページ「宇都宮市や小山市と共有する」を「宇都宮市や小山市と提携する」に修正していただきたい。

- (事務局) ご指摘の内容については、録音を確認の上修正したい。また、第 23 回会議録の 4 ページに委員名が入っているが、削除させていただきたい。
- (金子委員) 同じく 6 ページにも委員名が入っているので、削除をお願いしたい。
- (高山委員) 第 22 回会議録の 7 ページ、「『と』」の後に読点を入れていただきたい」と申しあげたので、修正をお願いしたい。
- (伊澤委員) 第 21 回会議録の 6 ページ、「南河内地区住民は合併に伴う不便さがある。南河内地区でも実施して欲しい。」と修正していただきたい。また、4 ページで「検査の結果、他の病院で再検査をしたときに、結果が出るまで時間がかかる。結果を待つ不安を無くすため、時間が短縮されればよいと思う。」と修正いただき、「近所の…」の一文は削除いただきたい。
- (杉原会長) 訂正いただいた部分を修正して確定する。

## 2) 行政評価第三者評価報告書の取りまとめについて

- (事務局) 資料にもとづき説明。
- ・ 説明の前に、まず誤字の修正をお願いしたい。報告書の 30 ページで 22 番の配水管敷設事業について「敷設」を「布設」に訂正いただきたい。
  - ・ 報告書の項目立ては、昨年度を踏襲している。4 ページには新たに事業の性質分類を記載し、市民の皆様にも内部評価の数字の意味が分かるようにした。
  - ・ 6 ページは評価結果である。7 から 8 ページは、前回の委員会でまとめられた評価結果を記載している。9 ページからが事務事業別の評価結果であるが、委員会の意見と同じ方向性のものを「その他の個別意見」に、方向性の違うものを「反対意見」に記載させていただいた。
- (杉原会長) 微調整であればこの場で修正して、市長に報告書を提出したい。大きく異なるようであれば協議し、後日提出することとしたい。
- (高山委員) 19 ページの個別意見で、「改善、工夫の余地など…」は誤植なのか。
- (前原委員) これは私の意見だが、このままで結構である。
- (高山委員) 34 ページの「グローバル化」を「グローバル化」に修正していただきたい。
- (前原委員) 35 ページの吉田東小学校改修事業に「小規模校の統廃合」とあるが、そういった話がヒアリングの中にあっただか確認したい。
- (事務局) 第 20 回委員会の会議録を確認したところ、そういった発言はないの

で、該当部分を削除させていただく。

(前原委員) 統廃合という言葉が出てくると考え方が変わると思い確認した。

<傍聴人入室>

(杉原会長) 途中だが、傍聴人がいらした。傍聴を認めることとしてよろしいか。

<委員了承>

(杉原会長) 引き続き審議に入る。特に意見がなければ、「小規模校の統廃合も視野に入れて」は削除したい。

(岡本委員) 市の方はどう考えたのか。

(前原委員) 統廃合が進む現状にあり、ヒアリングの際に教育長から発言があったかもしれないと思い資料も見返したが、見つからなかったため確認した。

(事務局) 録音を聞き直せば、そういった表現があるかもしれないが、会議録に基づいて判断したいと考えるので削除したい。

(杉原会長) 統廃合にかかわる記載があっても不思議はないが、記載する積極的な理由、裏づけがない。ご意見あればお聞かせいただきたい。

(前原委員) 市の考え方をお示しいただきたい。

(事務局) 市では教育委員会に学校適正配置検討委員会を設置し検討している。ただし、適正配置の検討と耐震事業はリンクしていない。統廃合が決まるまで何もしなくていいというわけにはいかず、並行して耐震事業を行っている。

(尾花委員) その他の個別意見にあるので、このままでもよいのではないか。

(杉原会長) 評価内容の欄には、全体的な評価について記載している。

(尾花委員) 審議してはいないので削除したほうがいいのではないか。

(杉原会長) 「小規模校の統廃合も視野に入れて」という言葉がなくても「市全体の小中学校の適正配置という観点から」という言葉で意味は含まれるのではないか。「小規模校の統廃合も視野に入れて」を削除することでよいか。

(委員) <異議なし>

(小林委員) 参考までにお尋ねするが、小規模校とはどのくらいの児童・生徒数の学校を指すのか。

(杉原会長) 小規模校の定義については、後でご説明いただく。

(高山委員) なお書きの部分以降は、全体を削除してみてもどうか。

- (杉原会長) 他の事業でもなお書きがある。該当するなお書きを削除することになった場合、他の事業についても、なお書きを削除するかどうかということになる。
- (高山委員) 耐震補強は生命に関わる問題であり、あえてなお書きを入れると市民は違和感を覚えるのではないかと思う。
- (金子委員) 高山委員の意見に賛成する。
- (杉原会長) それでは、なお書き以降を削除する。他にご意見はあるか。
- (杉原会長) 無いようであれば、今いただいたご意見に基づき事務局に修正していただき、報告書の提出としたい。
- (岡本委員) 参考までに、耐震補強を必要とする学校はどのくらいあるのか。
- (事務局) ヒアリング時の改修計画の資料をご確認いただきたい。
- (杉原会長) 全面改修ではなく部分補強をしてある学校は、コストは安いが見た目が悪くなっている印象がある。
- (前原委員) 行政の立場としては、経費の面から統廃合を考えたのか。小規模校は非常に温かみがあるように感じる。子どもたちにとっては、大規模校よりも小規模校のほうがいいのではないかと思う。山間地留学制度のようなものがあってもいいのではないかという考えを以前県に提出したことがある。
- (金子委員) 18ページの病後時保育事業で、「1日あたり2人程度」とあるが、そうすると年間350人と合わないのではないか。
- (事務局) 会議録を確認したところ、担当部長からヒアリングの際に説明があった。休日・祝日を除いた250日程度が稼働日数と考えると、1.5～1.6人くらいが適当かもしれない。
- (前原委員) より正確なほうがよいのではないか。
- (金子委員) 100人の中の1人や2人ではないので、訂正したほうがよいのではないか。
- (杉原会長) それでは修正をしていただく。

< 休 憩 >

○行政評価第三者評価報告書の提出

(杉原会長から広瀬市長に、平成21年度行政評価第三者評価報告書の提出が行われた。)

- (広瀬市長) 委員の皆様には様々な観点から市の重要施策について見ていただき、厚く御礼申しあげる。PDCAサイクルで内部評価をしながら新しくできた市の動きを一生懸命させていただいている。また、その中で手前

味噌になっていないかということから、外部評価で様々な角度からご示唆をいただき、この報告書をいただいたが、この一つひとつが道しるべになると思う。総合計画やそれに付随する様々な計画を策定し、本市の将来を皆様とともに作っていく過程の中で、一つひとつ評価するような作業が大事だと考えている。おろそかにすることなく、一つひとつをしっかりと見極め、地域の輪へつながっていくような施策の展開に努めていきたい。今日いただいた報告書をしっかりと読ませていただき、皆様のご意見を反映できるように努めたい。改めて御礼を申し上げます。

(杉原会長) 委員の皆様へ代わって一言申し上げたい。報告書の「はじめに」に感謝の言葉を入れさせていただいた。この背後には、長い時間にわたって、委員の方々の熱心な審議、活発な議論があったことを報告書の提出にあたって思い出している。そういう点を踏まえて、市のほうでは、行政改革、市民との協働の推進に全力を上げていただきたい。

### 3) 第二次下野市行政改革大綱(案)について

(事務局) 資料にもとづき説明。

- ・ 11月17日の委員会で議論していただいた内容を整理したものが資料2である。
- ・ 3ページの基本方針の箇所、3つの柱で構成されていることが、より分かりやすいように段落番号を付けてはどうかとのご意見をいただいたが、それぞれに小見出しを入れさせていただいた。
- ・ 6ページの「企画立案、管理業務と民間への委託が可能なサービスを分離」の箇所であるが、高山委員のご指摘を間違えて理解していた。原案どおりとさせていただきたいと考えていたが、「と」を読点にするのではなく、「と」の後に読点を入れるということであった。国語としてはどちらも間違いではないと思うが、ご協議をいただきたい。
- ・ 10ページの「職員数が抑制される」の中の「抑制」という表現が常套句のように使われているのではないかとのご指摘であったが、結論としては原案どおりとさせていただきたい。備考欄に記載したとおり地方分権の進展の中で国・県から市町村へと権限委譲されているが、権限委譲に伴って職員数が増えているわけではなく、抑制という言葉が常套句的に使用しているわけではない。
- ・ 同じく10ページの「行政サービスへの要望が多様化する」の中の「多様化」という表現も常套句のように使われているのではないかとのご指摘があった。合併した旧3町それぞれに考えの違いがあり多様化を実感している。原案のとおりとしたい。
- ・ 12ページの財政指標の設定のところ、庁舎建設が財政悪化に結びつくという表現になっているのではないかとのご指摘があった。ご指摘を踏まえ、庁舎建設が行政

改革の面からもプラスに捉えられるような文面に修正したい。

- ・ 最後に、大綱に財政指標の数値を記載すべきとのご指摘があった。現行の行革大綱は合併直後の策定で、参照すべき計画がなかったので大綱に数値を書き入れたが、既に財政計画等も策定されている。中期財政計画は3年ごとに修正するので大綱よりも短いスパンで修正が可能であり、中期財政計画の数値に依りたい。行革大綱の公表時には、ホームページにリンクを設定するなど、市民の方が容易に数値を参照できるよう工夫したい。

- (杉原会長) 何かご意見あればお願いしたい。
- (金子委員) 行革大綱は、どのような媒体により公表するのか。
- (事務局) ホームページで公表することを基本とし、概要については、市の広報紙でも周知したい。
- (金子委員) ホームページが見られない人には、どのように対応するのか。
- (事務局) 広報紙での概要の公表時には、財政指標について説明するなど工夫したい。
- (金子委員) 4ページの「顧客志向」という言葉は、市として新たに使うものである。市が考える定義を脚注で説明する必要があると思う。
- (事務局) 4ページには詳しく書いていないが、3ページの質的側面の向上のところで説明している。4ページに「顧客志向」の脚注を入れると、一般的な「顧客志向」の意味かと誤って理解される懸念がある。
- (金子委員) 3ページの説明が顧客志向の説明とは気づかれないと思う。
- (事務局) それでは、「市民起点に立った行政経営（顧客志向）」とさせていただきたいがいかがか。
- (杉原会長) 同じ単語が、3ページと4ページで出てくるのでよいと思う。それでは、質の視点の部分で加筆していただくこととする。
- (高山委員) 6ページの読点についてであるが、読点を入れないのであれば「企画立案、管理業務と」を「企画立案・管理業務と」と修正すべきと考える。
- (事務局) それでは「企画立案・管理業務と、民間への…」とさせていただきたい。
- (杉原会長) 「行政の本来の業務である」という修飾表現が「企画立案、管理業務」に係るということだと思う。ただし、法令用語や行政文書では「及び」を意味する「と」の後ろに、読点を普通は入れない。
- (高山委員) 行政文書として読点を使わないのであれば、使わなくてよい。
- (前原委員) この箇所については、特に気にならなかった。
- (杉原会長) 中点を入れて「企画立案・管理業務」とし、読点は無しとしたい。

- (高山委員) 9ページの「前納報奨金制度の廃止」は、第一次行政改革大綱にも記載がある。3年たっても廃止できていないのか確認したい。10ページの「職員数が抑制される中で業務量はますます増大する」について、行政改革の文章としては甘いと考える。自然減でしか職員数を減らすことはできない。今の職員数が適正かどうか疑問に感じている。人口に対する職員数だけでなく、面積に対する職員数も考慮すべきだと以前から思っていた。下野市は面積が狭い、もう少し抑制できるのではないか。一般論として「職員数が抑制される」ということはありうるが、下野市では人数が多いほうだと思う。権限委譲に伴って仕事量が増えることを負担というように考えて欲しくない。
- (川俣部長) 1点目の前納報奨金制度については、担当部局で廃止に向けた検討を進めている。2点目の職員数については、定員適正化計画の中で、定年退職者の二分の一不補充で進めている。また、早期退職制度も設けているので、たとえば10人退職するとなると、退職者の二分の一プラスアルファで採用することとしている。また、現在は3庁舎の分庁方式になっており市民課の窓口が3庁舎に置かれているが、新庁舎に統合されれば、人員は減らすことができると思う。また、職員数は面積で決まるのではなく、仕事量で決まると考えている。
- (前原委員) 行革の一番のメリットは人員削減だと思う。自然減では甘いと考えていたこともある。今は大分職員数が減ってきており違う考え方をしているが、3庁舎で重複事業をしている。合併は人員削減がメリットだと思うので十分に考慮して欲しい。
- (杉原会長) 高山委員は、どのような表現が適切と考えているのか。
- (高山委員) 「抑制」という言葉は、被害者意識のように感じる。
- (杉原会長) 確かに市民感覚からして、被害者意識に受け取られるような表現は良くない。
- (事務局) 地方分権の中で、たとえば旅券事務や障害者手帳の交付や開発許可事務も県から市町村に移管されるが、現実問題として職員数は増えない。市民感覚で違和感があるということであれば検討が必要だが、常套句的に使っているわけではないことをご理解いただきたい。
- (杉原会長) 地方分権の進展どころか地方主権の時代であり、県から市へ仕事に移管するのは負担ではなく、むしろ千載一遇のチャンスと捉えて欲しい。高山委員の熱烈な主張に、私もそのように考える。「職員数が抑制される中で」という表現を削除することでよろしいか。
- (篠崎副市長) 「職員数が抑制される中で」という表現だが、意識的に抑制しているので、受身表現がよくないのであれば「職員数を抑制している中で」

という表現に変えるのではいかがか。

(杉原会長) 「職員数が抑制される中で」という表現がなくても、前後の文章で、職員数を抑制していることは読み取れると思う。今の意見をもって案を修正するというのでよいか。

(委員) <委員了承>

(事務局) それでは、この修正案をもって1ヶ月間パブリックコメント手続きを進めることにしたい。ホームページでの公表に加えて、3庁舎でも閲覧できるようにする。

(前原委員) 最後のページに定住自立圏構想とあるが、これは合併と同じことか。財政問題から市町村合併が進んだが、合併により過疎化が進んだ面がある。定住自立圏構想にも同様の懸念を感じる。

(事務局) 市町村合併とは違うものと理解している。自治体それぞれが自立性・自主権を保ったまま、お互いに協調できる分野で緩やかに結びつくものである。合併のように全てくっつくということではない。「この分野では小山市と」「この分野は宇都宮市と」といったように緩やかに結びつくものである。中核市の要件は人口5万人以上かつ昼夜間人口比が1.0以上であり、栃木県内では宇都宮市や小山市など6市が該当する。下野市は昼夜間人口比で要件を満たさない。小山市は要件を満たすので中核市宣言をしたいとのことだが、小山市と協定を結ぶかどうかは下野市の判断である。

(杉原会長) 最後に、小規模校の定義を教えて欲しい。

(篠崎教育次長) 文部科学省で定められている標準規模は、1学校あたり12~18学級で、これ以下を小規模校としている。小学校なら1学年1クラス以下が小規模校となる。下野市内では、吉田東小学校、吉田西小学校、国分寺西小学校、細谷小学校が該当する。

(杉原会長) 他になれば、その他の事務連絡を事務局にお願いしたい。

その他

(事務局) 次回は来年の2月9日火曜日、午後1時30分から予定している。次回まで間があくので、会議録は修正箇所あれば書式に記載して返送して欲しい。次回の内容は、パブリックコメントを踏まえた行政改革大綱と行政改革大綱実施計画について報告させていただき、ご意見をいただく予定である。

(金子委員) 決算特集号を公表されたが、ホームページから見ようと思ってもなかなかたどり着けない。「ホームページに公表します」というだけでなく、トップページからどうやってたどりつくかについても記載していただ



きたい。広報紙も同様である。それが顧客志向ではないか。  
(事務局) ご意見を踏まえて工夫したい。それではこれで終了とさせていただく。

以上